

時間割コード	KB2001	ナンバリング	KB-IBS-131-COE,COP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	水3	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L（現社・法経）・T（物質・都市）	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	茨城学				
担当教員（ローマ字表記）	伊藤 雅一, 小原 規宏, 小川 哲哉, 安藤 寿男, 三枝 幹雄, 福與 徳文, 胡 安琪, 清水 恵美子 (obara norihiro, Saigusa Mikio, Shimizu Emiko)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

授業の概要/Course Overview

<p>基盤教育科目の入門科目で全学生必修の授業である。また、「地域志向教育プログラム」及び「地域協創人材教育プログラム」の構成科目となっている。</p> <p>地域における人々の暮らしは、自然、産業、文化、歴史、コミュニティなど複雑に関係しており、直面する様々な課題の解決に多様な人々が取り組んでいる。本授業では、茨城の事例を通して、地域が複層的であることを理解し、個人ワーク、発表による全体での共有、講師とのディスカッションなどのアクティブ・ラーニングを通して、課題解決の可能性について考える。</p> <p>なお、授業の進行に合わせたワークシートへの記入を行ってもらう。配布・回収はmanabaにより行う。</p>

キーワード/Keyword(s)

地域、自然、文化、歴史、人口減少、国際化、コミュニティ、福祉、行政、企業、産業、テクノロジー、農業

到達目標/Learning Objectives

<p>①学生が、日本の地域の直面している課題、およびその課題に行政・企業・市民・大学がどう向き合い、乗り越えようとしているかを理解できる。</p> <p>②学生が、講義、個人ワーク、ディスカッション、および自律的学修により、地域の重要性や複層性に理解を深め、課題解決の取り組みについて思考し、自ら地域に関わっていく意欲や方法の糸口を見出せる。</p>

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

<p>第2クォーター</p> <p>第1回：シラバスを用いたガイダンス（全学教育機構 伊藤先生）</p> <p>第2回：日本の地域を考えるにあたって（全学教育機構 伊藤先生）</p> <p>第3回：耕作放棄地の再生を考える（農学部 福与先生）</p> <p>第4回：茨城県の取り組み（茨城県）</p> <p>第5回：地域資源にアイデアを（水戸市）</p> <p>第6回：鹿島アントラーズ アカデミックアライアンス講義（鹿島アントラーズFC）</p> <p>第7回：茨城の環境問題（茨城工業高等専門学校 佐藤先生）</p> <p>第8回：国際化を考える（全学教育機構 胡先生）</p> <p>第3クォーター</p> <p>第9回：芸術がつなぐ地域と世界（全学教育機構）</p> <p>第10回：原子力と核融合の歴史（工学部 三枝先生）</p>
--

- 第11回：地域の自然資源を活用した地域振興と情報発信（理学部 安藤先生）
 第12回：「市民社会」と大学（人文社会科学部 小原先生）
 第13回：茨城県の社会貢献活動を考える（教育学部 小川先生）
 第14回：日立市HITSの取り組み（公益財団法人日立地区産業支援センター）
 第15回：郷土愛をはぐくむシティプロモーション（防災科学技術研究所 取出先生）
 期末試験

【授業外学修】（標準学習時間:各回2時間）

- (1) 講義資料の配布はTeamsにより行うので、必ず授業前に読んで、わからない用語などは、あらかじめ調べておくこと。
- (2) 講義資料には、各講師が事前課題を示しているのので、授業前にそれに取り組んでおくこと。
- (3) 自律的な学修として、参考文献を読んだり、講義で示された事例や団体などについて改めて調べたりしておくこと。

【アクティブ・ラーニング】

- (1) 授業前半の講義の後、示された課題について個人ワークとして取り組む。
- (2) 個人ワークで取り組んだ内容を発表しオンライン上の全体で共有する。
- (3) 全体で共有した発表内容については講師とディスカッションを行う。

履修上の注意/Notes

- ・この科目は通年科目であるが、第2クォーターと第3クォーターに実施する。
- ・単位認定のためには授業への3分の2以上（10回）の出席が必要である。

情報端末の活用

- ・講義はTeamsによるオンライン環境を使用するので、各自の受講場所のネット環境を確認しPCを準備すること。
- ・講義資料の配布はTeamsにより行う。
- ・講義の連絡、毎回の授業のワークシートの配布・回収はmanabaを通じて行う。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：日本の地域課題および課題解決の取り組みに関する基本的な知識と考え方を十分に修得している。
 A：日本の地域課題および課題解決の取り組みに関する基本的な知識と考え方を修得している。
 B：日本の地域課題および課題解決の取り組みに関する基本的な知識と考え方を概ね修得している。
 C：日本の地域課題および課題解決の取り組みに関する基本的な知識と考え方について最低限修得している。
 D：日本の地域課題および課題解決の取り組みに関する基本的な知識と考え方が修得できていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験：100%

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：特になし。授業内で関連資料を案内する。
-----------	-------------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	いばらきセクション125：みんなで選んだ茨城の宝
著者名	茨城新聞社 編
出版社	茨城新聞社

出版年	2017
ISBN	9784872734546
教材費	1000

参考書2

書名	未来の年表：人口減少日本でこれから起きること
著者名	河合雅司著
出版社	講談社
出版年	2017
ISBN	9784062884310
教材費	760

参考書3

書名	地域を変えるデザイン：コミュニティが元気になる30のアイデア
著者名	issue+design project著
出版社	英治出版
出版年	2011
ISBN	9784862761286
教材費	2000

参考書4

書名	ローカルコンテンツと地域再生：観光創出から産業振興へ
著者名	増淵敏之 著
出版社	水曜社
出版年	2018
ISBN	9784880654515
教材費	2500

参考書5

書名	キーワード地域社会学 新版
著者名	地域社会学会編
出版社	ハーベスト社
出版年	2011
ISBN	9784863390287
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎

実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

地域づくりにおける実践的経験のある教員、地方公共団体職員、公的な研究機関の研究者や支援機関の職員、企業の社員が、その経験に基づき、今日的な地域課題と取り組みについて講義する。

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB2002	ナンバリング	KB-IBS-131-COE,COP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	水4	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L (人間文化)・T (機械システム・電気電子システム)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	茨城学				
担当教員 (ローマ字表記)	伊藤 雅一, 小原 規宏, 小川 哲哉, 安藤 寿男, 三枝 幹雄, 福與 徳文, 胡 安琪, 清水 恵美子 (obara norihiro, Saigusa Mikio, Shimizu Emiko)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

授業の概要/Course Overview

基盤教育科目の入門科目で全学生必修の授業である。また、「地域志向教育プログラム」及び「地域協創人材教育プログラム」の構成科目となっている。

地域における人々の暮らしは、自然、産業、文化、歴史、コミュニティなど複雑に関係しており、直面する様々な課題の解決に多様な人々が取り組んでいる。本授業では、茨城の事例を通して、地域が複層的であることを理解し、個人ワーク、発表による全体での共有、講師とのディスカッションなどのアクティブ・ラーニングを通して、課題解決の可能性について考える。

なお、授業の進行に合わせたワークシートへの記入を行ってもらう。配布・回収はmanabaにより行う。

キーワード/Keyword(s)

地域、自然、文化、歴史、人口減少、国際化、コミュニティ、福祉、行政、企業、産業、テクノロジー、農業

到達目標/Learning Objectives

①学生が、日本の地域の直面している課題、およびその課題に行政・企業・市民・大学がどう向き合い、乗り越えようとしているかを理解できる。

②学生が、講義、個人ワーク、ディスカッション、および自律的学修により、地域の重要性や複層性に理解を深め、課題解決の取り組みについて思考し、自ら地域に関わっていく意欲や方法の糸口を見出せる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第2クォーター

第1回：シラバスを用いたガイダンス (全学教育機構 伊藤先生)

第2回：日本の地域を考えるにあたって (全学教育機構 伊藤先生)

第3回：耕作放棄地の再生を考える (農学部 福与先生)

第4回：茨城県の取り組み (茨城県)

第5回：地域資源にアイデアを (水戸市)

第6回：鹿島アントラーズ アカデミックアライアンス講義 (鹿島アントラーズFC)

第7回：茨城の環境問題 (茨城工業高等専門学校 佐藤先生)

第8回：国際化を考える (全学教育機構 胡先生)

第3クォーター

第9回：芸術がつなぐ地域と世界 (全学教育機構)

- 第10回：原子力と核融合の歴史（工学部 三枝先生）
 第11回：地域の自然資源を活用した地域振興と情報発信（理学部 安藤先生）
 第12回：「市民社会」と大学（人文社会科学部 小原先生）
 第13回：茨城県の社会貢献活動を考える（教育学部 小川先生）
 第14回：日立市HITSの取り組み（公益財団法人日立地区産業支援センター）
 第15回：郷土愛をはぐくむシティブロモーション（防災科学技術研究所 取出先生）
 期末試験

【授業外学修】（標準学習時間:各回2時間）

- (1) 講義資料の配布はTeamsにより行うので、必ず授業前に読んで、わからない用語などは、あらかじめ調べておくこと。
- (2) 講義資料には、各講師が事前課題を示しているのので、授業前にそれに取り組んでおくこと。
- (3) 自律的な学修として、参考文献を読んだり、講義で示された事例や団体などについて改めて調べたりしておくこと。

【アクティブ・ラーニング】

- (1) 授業前半の講義の後、示された課題について個人ワークとして取り組む。
- (2) 個人ワークで取り組んだ内容を発表しオンライン上の全体で共有する。
- (3) 全体で共有した発表内容については講師とディスカッションを行う。

履修上の注意/Notes

- ・この科目は通年科目であるが、第2クォーターと第3クォーターに実施する。
- ・単位認定のためには授業への3分の2以上（10回）の出席が必要である。

情報端末の活用

- ・講義はTeamsによるオンライン環境を使用するので、各自の受講場所のネット環境を確認しPCを準備すること。
- ・講義資料の配布はTeamsにより行う。
- ・講義の連絡、毎回の授業のワークシートの配布・回収はmanabaを通じて行う。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：日本の地域課題および課題解決の取り組みに関する基本的な知識と考え方を十分に修得している。
 A：日本の地域課題および課題解決の取り組みに関する基本的な知識と考え方を修得している。
 B：日本の地域課題および課題解決の取り組みに関する基本的な知識と考え方を概ね修得している。
 C：日本の地域課題および課題解決の取り組みに関する基本的な知識と考え方について最低限修得している。
 D：日本の地域課題および課題解決の取り組みに関する基本的な知識と考え方が修得できていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験：100%

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：特になし。授業内で関連資料を案内する。
-----------	-------------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	いばらきセクション125：みんなで選んだ茨城の宝
著者名	茨城新聞社 編

出版社	茨城新聞社
出版年	2017
ISBN	9784872734546
教材費	1000

参考書2

書名	未来の年表：人口減少日本でこれから起きること
著者名	河合雅司著
出版社	講談社
出版年	2017
ISBN	9784062884310
教材費	760

参考書3

書名	地域を変えるデザイン：コミュニティが元気になる30のアイデア
著者名	issue+design project著
出版社	英治出版
出版年	2011
ISBN	9784862761286
教材費	2000

参考書4

書名	ローカルコンテンツと地域再生：観光創出から産業振興へ
著者名	増淵敏之 著
出版社	水曜社
出版年	2018
ISBN	9784880654515
教材費	2500

参考書5

書名	キーワード地域社会学 新版
著者名	地域社会学会編
出版社	ハーベスト社
出版年	2011
ISBN	9784863390287
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	
課題解決能力	◎

コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

地域づくりにおける実践的経験のある教員、地方公共団体職員、公的な研究機関の研究者や支援機関の職員、企業の社員が、その経験に基づき、今日的な地域課題と取り組みについて講義する。

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等

時間割コード	KB2003	ナンバリング	KB-IBS-131-COE,COP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火4	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	P	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	茨城学				
担当教員（ローマ字表記）	伊藤 雅一, 小原 規宏, 小川 哲哉, 安藤 寿男, 三枝 幹雄, 福與 徳文, 胡 安琪, 清水 恵美子 (obara norihiro, Saigusa Mikio, Shimizu Emiko)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

授業の概要/Course Overview

<p>基盤教育科目の入門科目で全学生必修の授業である。また、「地域志向教育プログラム」及び「地域協創人材教育プログラム」の構成科目となっている。</p> <p>地域における人々の暮らしは、自然、産業、文化、歴史、コミュニティなど複雑に関係しており、直面する様々な課題の解決に多様な人々が行き交っている。本授業では、茨城の事例を通して、地域が複層的であることを理解し、個人ワーク、発表による全体での共有、講師とのディスカッションなどのアクティブ・ラーニングを通して、課題解決の可能性について考える。</p> <p>なお、授業の進行に合わせたワークシートへの記入を行ってもらう。配布・回収はmanabaにより行う。</p>

キーワード/Keyword(s)

地域、自然、文化、歴史、人口減少、国際化、コミュニティ、福祉、行政、企業、産業、テクノロジー、農業

到達目標/Learning Objectives

<p>①学生が、日本の地域の直面している課題、およびその課題に行政・企業・市民・大学がどう向き合い、乗り越えようとしているかを理解できる。</p> <p>②学生が、講義、個人ワーク、ディスカッション、および自律的学修により、地域の重要性や複層性に理解を深め、課題解決の取り組みについて思考し、自ら地域に関わっていく意欲や方法の糸口を見出せる。</p>

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

<p>第2クォーター</p> <p>第1回：シラバスを用いたガイダンス（全学教育機構 伊藤先生）</p> <p>第2回：日本の地域を考えるにあたって（全学教育機構 伊藤先生）</p> <p>第3回：耕作放棄地の再生を考える（農学部 福与先生）</p> <p>第4回：茨城県の取り組み（茨城県）</p> <p>第5回：地域資源にアイデアを（水戸市）</p> <p>第6回：鹿島アントラーズ アカデミックアライアンス講義（鹿島アントラーズFC）</p> <p>第7回：茨城の環境問題（茨城工業高等専門学校 佐藤先生）</p> <p>第8回：国際化を考える（全学教育機構 胡先生）</p> <p>第3クォーター</p> <p>第9回：芸術がつなぐ地域と世界（全学教育機構）</p> <p>第10回：原子力と核融合の歴史（工学部 三枝先生）</p> <p>第11回：地域の自然資源を活用した地域振興と情報発信（理学部 安藤先生）</p>
--

- 第12回：「市民社会」と大学（人文社会科学部 小原先生）
第13回：茨城県の社会貢献活動を考える（教育学部 小川先生）
第14回：阿見町の取り組み（阿見町）
第15回：郷土愛をはぐくむシティプロモーション（防災科学技術研究所 取出先生）
期末試験

【授業外学修】（標準学習時間:各回2時間）

- (1) 講義資料の配布はTeamsにより行うので、必ず授業前に読んで、わからない用語などは、あらかじめ調べておくこと。
- (2) 講義資料には、各講師が事前課題を示しているのので、授業前にそれに取り組んでおくこと。
- (3) 自律的な学修として、参考文献を読んだり、講義で示された事例や団体などについて改めて調べたりしておくこと。

【アクティブ・ラーニング】

- (1) 授業前半の講義の後、示された課題について個人ワークとして取り組む。
- (2) 個人ワークで取り組んだ内容を発表しオンライン上の全体で共有する。
- (3) 全体で共有した発表内容については講師とディスカッションを行う。

履修上の注意/Notes

- ・この科目は通年科目であるが、第2クォーターと第3クォーターに実施する。
- ・単位認定のためには授業への3分の2以上（10回）の出席が必要である。

情報端末の活用

- ・講義はTeamsによるオンライン環境を使用するので、各自の受講場所のネット環境を確認しPCを準備すること。
- ・講義資料の配布はTeamsにより行う。
- ・講義の連絡、毎回の授業のワークシートの配布・回収はmanabaを通じて行う。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：日本の地域課題および課題解決の取り組みに関する基本的な知識と考え方を十分に修得している。
A：日本の地域課題および課題解決の取り組みに関する基本的な知識と考え方を修得している。
B：日本の地域課題および課題解決の取り組みに関する基本的な知識と考え方を概ね修得している。
C：日本の地域課題および課題解決の取り組みに関する基本的な知識と考え方について最低限修得している。
D：日本の地域課題および課題解決の取り組みに関する基本的な知識と考え方が修得できていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験：100%

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：特になし。授業内で関連資料を案内する。
----	-------------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	いばらきセレクション125：みんなで選んだ茨城の宝
著者名	茨城新聞社 編
出版社	茨城新聞社

出版年	2017
ISBN	9784872734546
教材費	1000

参考書2

書名	未来の年表：人口減少日本でこれから起きること
著者名	河合雅司著
出版社	講談社
出版年	2017
ISBN	9784062884310
教材費	760

参考書3

書名	地域を変えるデザイン：コミュニティが元気になる30のアイデア
著者名	issue+design project著
出版社	英治出版
出版年	2011
ISBN	9784862761286
教材費	2000

参考書4

書名	ローカルコンテンツと地域再生：観光創出から産業振興へ
著者名	増淵敏之 著
出版社	水曜社
出版年	2018
ISBN	9784880654515
教材費	2500

参考書5

書名	キーワード地域社会学 新版
著者名	地域社会学会編
出版社	ハーベスト社
出版年	2011
ISBN	9784863390287
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎

実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

○

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

地域づくりにおける実践的経験のある教員、地方公共団体職員、公的な研究機関の研究者や支援機関の職員、企業の社員が、その経験に基づき、今日的な地域課題と取り組みについて講義する。

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB2004	ナンバリング	KB-IBS-131-COE,COP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火5	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	S・T(情報)・A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	茨城学				
担当教員(ローマ字表記)	伊藤 雅一, 小原 規宏, 小川 哲哉, 安藤 寿男, 三枝 幹雄, 福與 徳文, 胡 安琪, 清水 恵美子 (obara norihiro, Saigusa Mikio, Shimizu Emiko)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

授業の概要/Course Overview

基盤教育科目の入門科目で全学生必修の授業である。また、「地域志向教育プログラム」及び「地域協創人材教育プログラム」の構成科目となっている。

地域における人々の暮らしは、自然、産業、文化、歴史、コミュニティなど複雑に関係しており、直面する様々な課題の解決に多様な人々が取り組んでいる。本授業では、茨城の事例を通して、地域が複層的であることを理解し、個人ワーク、発表による全体での共有、講師とのディスカッションなどのアクティブ・ラーニングを通して、課題解決の可能性について考える。

なお、授業の進行に合わせたワークシートへの記入を行ってもらう。配布・回収はmanabaにより行う。

キーワード/Keyword(s)

地域、自然、文化、歴史、人口減少、国際化、コミュニティ、福祉、行政、企業、産業、テクノロジー、農業

到達目標/Learning Objectives

①学生が、日本の地域の直面している課題、およびその課題に行政・企業・市民・大学がどう向き合い、乗り越えようとしているかを理解できる。

②学生が、講義、個人ワーク、ディスカッション、および自律的学修により、地域の重要性や複層性に理解を深め、課題解決の取り組みについて思考し、自ら地域に関わっていく意欲や方法の糸口を見出せる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第2クォーター

第1回：シラバスを用いたガイダンス(全学教育機構 伊藤先生)

第2回：日本の地域を考えるにあたって(全学教育機構 伊藤先生)

第3回：耕作放棄地の再生を考える(農学部 福与先生)

第4回：茨城県の取り組み(茨城県)

第5回：地域資源にアイデアを(水戸市)

第6回：鹿島アントラーズ アカデミックアライアンス講義(鹿島アントラーズFC)

第7回：茨城の環境問題(茨城工業高等専門学校 佐藤先生)

第8回：国際化を考える(全学教育機構 胡先生)

第3クォーター

第9回：芸術がつなぐ地域と世界(全学教育機構)

第10回：原子力と核融合の歴史(工学部 三枝先生)

第11回：地域の自然資源を活用した地域振興と情報発信(理学部 安藤先生)

- 第12回：「市民社会」と大学（人文社会科学部 小原先生）
第13回：茨城県の社会貢献活動を考える（教育学部 小川先生）
第14回：阿見町の取り組み（阿見町）
第15回：郷土愛をはぐくむシティプロモーション（防災科学技術研究所 取出先生）
期末試験

【授業外学修】（標準学習時間:各回2時間）

- (1) 講義資料の配布はTeamsにより行うので、必ず授業前に読んで、わからない用語などは、あらかじめ調べておくこと。
- (2) 講義資料には、各講師が事前課題を示しているのので、授業前にそれに取り組んでおくこと。
- (3) 自律的な学修として、参考文献を読んだり、講義で示された事例や団体などについて改めて調べたりしておくこと。

【アクティブ・ラーニング】

- (1) 授業前半の講義の後、示された課題について個人ワークとして取り組む。
- (2) 個人ワークで取り組んだ内容を発表しオンライン上の全体で共有する。
- (3) 全体で共有した発表内容については講師とディスカッションを行う。

履修上の注意/Notes

- ・この科目は通年科目であるが、第2クォーターと第3クォーターに実施する。
- ・単位認定のためには授業への3分の2以上（10回）の出席が必要である。

情報端末の活用

- ・講義はTeamsによるオンライン環境を使用するので、各自の受講場所のネット環境を確認しPCを準備すること。
- ・講義資料の配布はTeamsにより行う。
- ・講義の連絡、毎回の授業のワークシートの配布・回収はmanabaを通じて行う。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：日本の地域課題および課題解決の取り組みに関する基本的な知識と考え方を十分に修得している。
A：日本の地域課題および課題解決の取り組みに関する基本的な知識と考え方を修得している。
B：日本の地域課題および課題解決の取り組みに関する基本的な知識と考え方を概ね修得している。
C：日本の地域課題および課題解決の取り組みに関する基本的な知識と考え方について最低限修得している。
D：日本の地域課題および課題解決の取り組みに関する基本的な知識と考え方が修得できていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験：100%

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：特になし。授業内で関連資料を案内する。
----	-------------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	いばらきセレクション125：みんなで選んだ茨城の宝
著者名	茨城新聞社 編
出版社	茨城新聞社

出版年	2017
ISBN	9784872734546
教材費	1000

参考書2

書名	未来の年表：人口減少日本でこれから起きること
著者名	河合雅司著
出版社	講談社
出版年	2017
ISBN	9784062884310
教材費	760

参考書3

書名	地域を変えるデザイン：コミュニティが元気になる30のアイデア
著者名	issue+design project著
出版社	英治出版
出版年	2011
ISBN	9784862761286
教材費	2000

参考書4

書名	ローカルコンテンツと地域再生：観光創出から産業振興へ
著者名	増淵敏之 著
出版社	水曜社
出版年	2018
ISBN	9784880654515
教材費	2500

参考書5

書名	キーワード地域社会学 新版
著者名	地域社会学会編
出版社	ハーベスト社
出版年	2011
ISBN	9784863390287
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎

実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

○

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

地域づくりにおける実践的経験のある教員、地方公共団体職員、公的な研究機関の研究者や支援機関の職員、企業の社員が、その経験に基づき、今日的な地域課題と取り組みについて講義する。

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB0201	ナンバリング	KB-IBS-131-COE,COP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	水6	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	T (フレックス)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	茨城学				
担当教員 (ローマ字表記)	伊藤 雅一				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

授業の概要/Course Overview

基盤教育科目の入門科目で全学生必修の授業である。また、「地域志向教育プログラム」及び「地域協創人材教育プログラム」の構成科目となっている。

地域における人々の暮らしは、自然、産業、文化、歴史、コミュニティなど複雑に関係しており、直面する様々な課題の解決に多様な人々が取り組んでいる。本授業では、全国と茨城の事例を並行的に学ぶことで、地域が複層的であることを理解し、個人ワーク、グループ・ディスカッション、発表などのアクティブ・ラーニングを通して、課題解決の可能性について考える。

キーワード/Keyword(s)

地域、自然、文化、歴史、人口減少、国際化、コミュニティ、福祉、行政、企業、産業、テクノロジー、農業

到達目標/Learning Objectives

- ①学生が、日本の地域の直面している課題、およびその課題に行政・企業・市民・大学がどう向き合い、乗り越えようとしているかを理解できる。
- ②学生が、講義、個人ワーク、ディスカッション、および自律的学修により、地域の重要性や複層性に理解を深め、課題解決の取り組みについて思考し、自ら地域に関わっていく意欲や方法の糸口を見出せる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第2クォーター

- 第1回：シラバスを用いたガイダンス (授業内容)
- 第2回：日本の地域を考えるにあたって
- 第3回：茨城の人口減少と課題と取り組み
- 第4回：高齢化の課題と取り組み (全国の地域)
- 第5回：茨城の高齢化の課題と取り組み
- 第6回：子育て支援の課題と取り組み (全国の地域)
- 第7回：茨城の子育て支援の課題と取り組み
- 第8回：地域における学生の立ち位置 (中間のふりかえり)

第3クォーター

- 第9回：日本の産業を考える
- 第10回：茨城の産業の課題と取り組み
- 第11回：農業の課題と取り組み (全国の地域)
- 第12回：茨城の農業の課題と取り組み
- 第13回：商工業の課題と取り組み (全国の地域)

第14回：茨城の商工業の課題と取り組み

第15回：地域の複層性における立ち位置（総括）

【授業外学修】（標準学習時間:各回2時間）

- (1) 各回のテーマに近いニュースや記事などに関心を向け、収集しておくこと。
- (2) 講義資料のわからない用語などは、あらかじめ調べておくこと。
- (3) 自律的な学修として、参考文献や講義資料に示された事例や団体などについて改めて調べておくこと。

【アクティブ・ラーニング】

- (1) 講義の後、示された課題に個人ワークとして取り組む。
- (2) オンライン対面授業により、課題への取り組みを発表する。
- (3) 発表された内容について、講師と共にのディスカッションを行う。

履修上の注意/Notes

- ・この科目は通年科目であるが、第2クォーターと第3クォーターに実施する。
- ・単位認定のためには授業への3分の2以上（10回）の出席が必要である。
- ・授業開始後30分までは遅刻、30分以降は欠席となる。3回の遅刻で1回の欠席に換算する。

○オフィスアワー：授業時間外にも、「学生用連絡先」へメールでの質問等に対し返信対応する。

情報端末の活用

- ・講義はTeamsによるオンライン環境を使用するので、各自の受講場所のネット環境を確認しPCを準備すること。
- ・講義の連絡などはmanabaを通じて行う。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：日本の地域課題におよび課題解決の取り組みに関する基本的な知識と考え方を十分に修得している。
- A：日本の地域課題におよび課題解決の取り組みに関する基本的な知識と考え方を修得している。
- B：日本の地域課題におよび課題解決の取り組みに関する基本的な知識と考え方を概ね修得している。
- C：日本の地域課題におよび課題解決の取り組みに関する基本的な知識と考え方について最低限修得している。
- D：日本の地域課題におよび課題解決の取り組みに関する基本的な知識と考え方が修得できていない。

成績の評価方法/Grading

小課題など授業への取り組み状況（50%）、最終課題（50%）

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：特になし。授業内で関連資料を案内する。
----	-------------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	いばらきセレクション125 みんなで選んだ茨城の宝
著者名	茨城新聞社 編
出版社	茨城新聞社

出版年	2017
ISBN	9784872734546
教材費	1000

参考書2

書名	未来の年表 人口減少日本でこれから起きること
著者名	河合雅司 著
出版社	講談社
出版年	2017
ISBN	9784062884310
教材費	760

参考書3

書名	地域を変えるデザイン：コミュニティが元気になる30のアイデア
著者名	issue+design project著
出版社	英治出版
出版年	2011
ISBN	9784862761286
教材費	2000

参考書4

書名	ローカルコンテンツと地域再生：観光創出から産業振興へ
著者名	増淵敏之 著
出版社	水曜社
出版年	2018
ISBN	9784880654515
教材費	2500

参考書5

書名	キーワード地域社会学 新版
著者名	地域社会学会編
出版社	ハーベスト社
出版年	2011
ISBN	9784863390287
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎

実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--